

平成26年度入試【3年次編入学】

【日本語学・日本文学】

(法文学部 言語文化学科)

注意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけない。
- 2 問題紙は1ページである。解答用紙は2枚である。
指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙の所定のところへ記入すること。
- 4 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
- 5 試験終了後、問題紙は持ち帰ること。

一 次の文章を読んで後の問いに答えよ。

ある人の妻、さられて既に馬に乗りける折節、雨降りければ、かの夫、「雨晴れてこそ行き給はめ」と云ひければ、妻の返事に、

「降らば降れ降らずば降らず降らずとぬれで行くべき袖ならばこそ」と答へたりければ、わりなく覚えてとどめたりけるとかや。

遠江国にも、ある人の妻、さられむとて、既に馬に乗りて打ち出でけるを、人の妻のさらるる時は、家の中の物、心に任せて取る習ひなれば、「何物にても取り給へ」と、夫申しける時、「殿ほどの大事の人を打ち捨てて行く体の身の、何物か欲しかるべき」とて打ち笑みて、憎気もなく云ひけるに、気色まめやかに糸惜しく覚えて、やがてとどめて、死にの別れになりにけり。

人に憎まるるも、思はるるも、先世の事と云ひながら、心ざまによるべし。

『沙石集』による

問 傍線部A、Bをそれぞれ口語訳せよ。

二 「さんば（散歩）」「はんたい（反対）」「げんご（言語）」の三語に含まれる撥音が、どのような音声として実現するかを記したうえで、撥音が実現する場合の相補分布の様相を説明せよ。

三 次の漢詩は、広瀬淡窓（一七八二—一八五六）の「隈川雑詠五首」の第一首である。読んで以下の問いに答えよ。なお隈川とは、大分県の三隈川のことである。設問の都合で返り点や送り仮名を省いたところがある。

十里清江藍不如。人家往往架流居。兒童未解操舟楫。也倚欄干学釣魚。

問一 押韻字をすべて指摘せよ。

問二 傍線部「不如」を平仮名だけで読み下せ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問三 波線部「兒童未解操舟楫」をわかりやすい口語に訳せ。

四 以下の問いに答えよ。

問一 勅撰漢詩集について知るところを述べよ。

問二 『曾根崎心中』について説明せよ。

問三 次の文学史的事項の中から一つを選び、知るところを簡潔に述べよ。

森鷗外 永井荷風 太宰治 林芙美子 プロレタリア文学 私小説